

# 硬膜動静脈奇形と 内頸動脈海綿静脈洞瘻（CCF-53）

船橋市立医療センター脳神経外科（2002年12月12日作成）

## 1、硬膜動静脈奇形 (dural arteriovenous malformation = dural AVM)

硬膜に発生した動静脈の短絡路（瘻）を硬膜動静脈奇形という。これは真の動静脈奇形 (arteriovenous malformation) ではなく、動静脈瘻 (arteriovenous fistula) である。

好発部位：2ヶ所

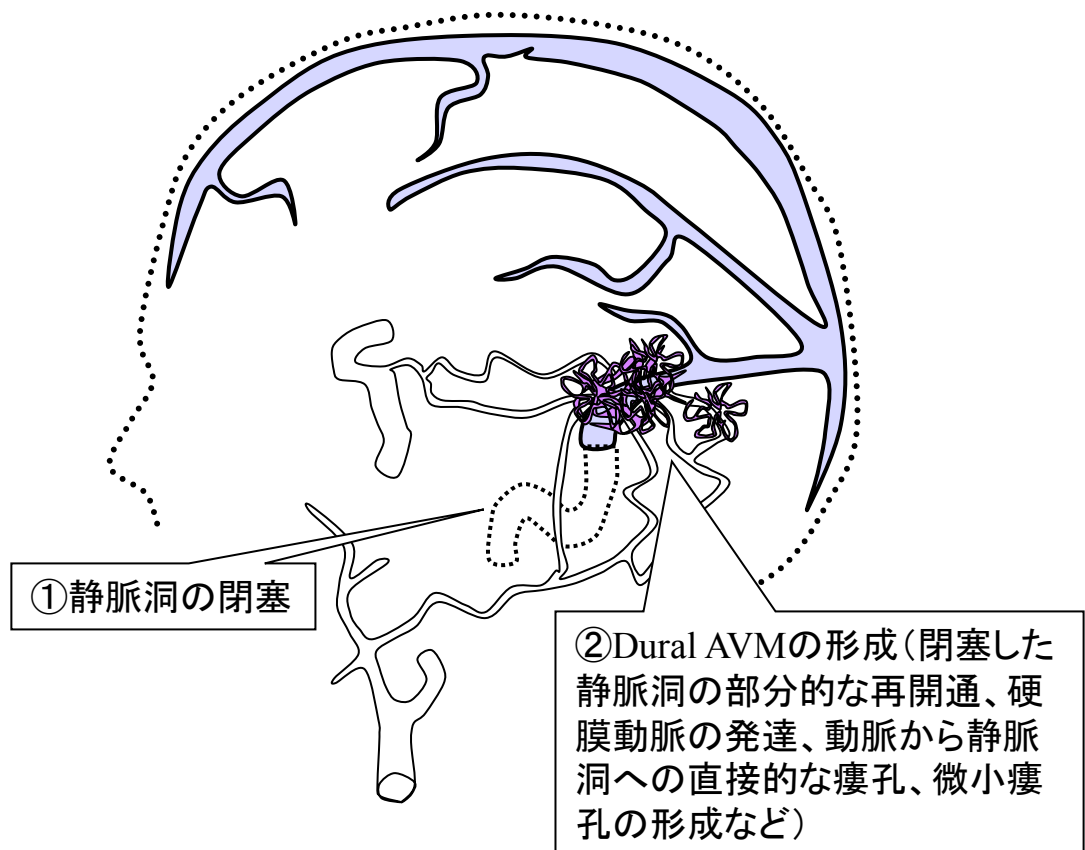
- ① 横・S状静脈洞 (transverse-sigmoid sinus)
- ② 海綿静脈洞 (cavernous sinus)

好発年齢：40～60歳の中年以降にみられる。海綿静脈洞部では女性に多い。

原因：先天性または後天性。慢性炎症または外傷により静脈洞が閉塞し、側副血行路が形成され硬膜動静脈奇形が発生すると考えられている。

症状：拍動性耳鳴（92%）、雑音（89%）、頭痛（41%）、視力障害（33%）  
うっ血乳頭（26%）。

治療 血管内治療（塞栓術）、外科的手術（流入動脈の結紮、短絡部周辺の硬膜切離）、放射線療法



## 2、頸動脈海綿静脈洞瘻(carotid-cavernous fistula, CCF)

頸動脈海綿静脈洞瘻とは、内頸動脈および外頸動脈と海綿静脈洞の間に短絡血流路が形成された状態である。

原因：①外傷（頭蓋底骨折により内頸動脈が断裂し、海綿静脈洞に向かって穴があく）

②内頸動脈瘤が海綿静脈洞内に破裂

③海綿静脈洞部に存在する硬膜動静脈奇形

④原因不明

症状 ①拍動性眼球突出

②結膜充血浮腫

③頭部雑音（上眼瞼部、側頭部、患者は耳鳴として感じることもある）

その他：顔面静脈の怒張、外眼筋麻痺（動眼神経、滑車神経、外転神経麻痺）

治療 血管内治療（塞栓術）、放射線治療、経過観察

